

ご支援くださっている皆さまへ

日々、仮設住宅をまわっていると、いろいろな方に出会います。

今日は私の「印象的だった出会い」をご紹介します。

(Facebookページからの転載です。もう読まれた方は重複ですみません…)

=====

仮設住宅での6度目の夏。今年も夏祭りが開かれた。

自治会の役員さんにお誘いいただいて足を運んだものの、  
気になるのは「ここに来ない住民さん」。

60代男性、独居。

部屋を訪ねてみると、

案の定、夏祭りが開催されていることすら知らなかった。

屋台で買ってきたつくねを部屋で食べながら、  
話に花を咲かせる。

「いや、分かってるんだよ、ご近所さんと仲良くしなきゃいけないってさあ〜。  
んでも、どーも煩わしくってさあ〜」

「そいなごとばり（そんなことばかり）語っていると、孤独死するよ〜？笑」

震災前から病を患っていた彼は、  
避難所で食事制限が守れず、一気に悪化し、  
今では週に3回人工透析を受けている。

最近仕事を終えて帰って来ると、  
ぐったりして、何も出来ないんだという。

そして、そんな人に限って、復興住宅への入居権限がない。

「居られるだけ仮設に居て、その後のことはその時に考えるさあ〜」

目に見えて落ち込むでもなく、  
彼は達観したような表情でそう話す。  
そうでなきゃ、やってられないんだろうなと思う。

ひとしきり話し終わって帰るとき、  
彼はとびきりの笑顔でこう言った。

「今日はあきさんの顔見て、なんか安心したあ」

これだから、この活動はやめられない。

お祭り、来てよかったな。



===2016年8月24日Facebook投稿===

=====

「わたしは出身は尾崎（おのさき）なんだけど、  
尾崎は後ろに山背負ってるからさあ。  
わたしは山の上から津波来るの一部始終見ましたよ。  
親父の実家が流されていくのも。  
でも、わたしらは人的被害はなかったから。」

知り合いは、孫が大川小で、お孫さん三人亡くしてね。  
同じ団地に住んでるんだけど、  
会うと悲しい話ばかりになるから。だから顔合わせないようにしてるのさ。

いつまでも、傷は癒えないというか、悲しみは消えないというか。

でも、これは生まれる前から敷かれてたレールなのかなって。  
ほら、運命は変えられないから。

私はもう車の免許も返納して、どこにも行かないから、  
山で木の枝だの、竹だの、実だの拾ってきて、  
こうして飾りもの作ったりするのさ。  
その一時がね、いろんなこと忘れられるっていうか。

あんた、きずな新聞の人？もしかして編集長さん？  
きずな新聞ね、いつも楽しみにしてるんだよ。  
心に染みること書かしてる（書いてある）よねえ。  
編集長さん、どんな人かなあって思ってたんだけど、  
アンタだったんだねえ。

これ（右写真）、記念にやっから。  
わたしらは、頑張ってるからさあ」



===2016年9月16日Facebook投稿===

### ◆お知らせ① 地元ボランティア募集の広告を出しました！

活動を定期的かつ中長期的に担える人材を確保するために、地元新聞に  
広告を掲載しました（右図参照）。掲載費用は皆さまからのご支援を  
活用させていただきました。ありがとうございます。  
早速反応もあり、うれしい限りです。

### ◆お知らせ② 応援お願いします！懐かしい石巻の絵カレンダー！

私の友人・熊倉一徳さんが毎年「懐かしい石巻の絵をカレンダーにして、仮設住宅に配布する」という活動を行なっています。震災によって、今はもう見られなくなってしまった風景。だからこそ、これらの絵は住民さんの心の支えになっています。現在、カレンダーの制作費用をクラウドファンディングで集めています。素敵なりターンもあるので、良かったらぜひ覗いてみてください。  
<https://readyfor.jp/projects/calendar2017>

### ◆お知らせ③ 応援お願いします！牡鹿に学びの場をつくるプロジェクト！

今回の新聞のトップを飾った「牡鹿に学びの場をつくるプロジェクト」のチラシを同封させていただきました。贈答品やご家庭用に、石巻の美味しいワカメはいかがでしょうか？（本当に美味しいです！ワカメの常識が変わります！） <https://oshikamanabiba.stores.jp/>

これからどんどん寒くなっていきますね。どうぞお体に気を付けてお過ごしください。